

<目次>

- 「川崎市、大学3年生から教員採用」に思う。
- 学校給食費の無料化で「子育てしやすい町、川崎」を！
- ▲ お知らせコーナー
 - ☆ 5/13(土)15(月)等々力緑地再編整備・環境配慮計画書説明会
 - ☆ 5/21(日)公害・環境、健康、まちづくりフェスタ
 - ☆ 5/28(日)ゆめごこちライブ「李政美ライブ」
 - ☆ 6/4(日)平和をきづく市民のつどい
 - ☆ 6/8(木)本当のことしか言わないツアー 2023 —金平茂紀縦横無尽に語る—
 - ☆ 6/28(日)ゆめシネマ「原発を止めた裁判長—そして原発をとめる農家たち—」

★ 編集後記

● 「川崎市、大学3年生から教員採用」に思う

5月1日、NHKがニュースで「川崎市、大学3年生から教員採用」と報道し、話題になりました。

これ自体、教育実習もまだやっていない時期に「青田買い」のような手法の問題がありますが、その理由としてこの4月に40人もの先生が足りない問題と一緒に報道されていました。

こちらの内容の方が本来ならば大きく報道すべきことではないでしょうか？

川崎市教委は昨年4月で35人の欠員が生じているのにそれがさらに増えていることに対してどう考えているのでしょうか？

2022年度、定年退職者が128名に対して、定年前退職者の方が159人と、定年前に辞めてしまう先生が多いことが、川崎市教育委員会の資料で分かりました。

しかも、その7割(109人)が20代、30代のこれから現場を担っていく先生なのです。

退職の理由として一番多かったのが(42人)他都市の先生になるためということです。

つまり、川崎市での教員は勤められないということです。

この実態を改善しなくて、いくら新しい先生を先に確保しようとしても問題は解決しないはずです。

教職員の時間外労働が問題になっています。

その解決には先生を増やすか、仕事量を減らすかしかありません。

正規の先生を増やすことが一番大切です。

市教委は、「将来少子化により教師が余るので、今採用を増やすことは出来ない」と正規採用を増やすことに消極的です。

小学校での英語が始まる時、「コミュニケーションは担任が一番取れるので、担任の先生が英語を教えるのが一番ふさわしい。」

「専科の先生より担任で」と、市教委は英語免許のない先生が英語を教えることを当たり前としました。

先生たちの負担には目をつぶったのです。

川崎市独自の少人数学級を推し進めようとはしないことも市教委としての責任は大きいです。

現場の教職員、子どもたちの困難に寄り添って行政を行っているのでしょうか？

このままでは、川崎市から離れていく教職員、途中でやめてしまう教職員は増えるばかりではないでしょうか？

川崎市教職員連絡会 船津 了

■学校給食費の無料化で、「子育てしやすい町、川崎」を！

学校給食は教育の一環です

学校給食法は、「給食は子どもの心身の健全な発達に資するものであり、学校生活を豊かにするもの」としています。

つまり、学校給食は教育の一環であることを明らかにしています。

子どもたちのすこやかな成長のために、安全でおいしい学校給食のいっそうの充実が求められています。

<保護者負担が重い給食費>

日本国憲法 26 条は「義務教育は、これを無償とする」と定めています。

でも、実際にはたくさんの保護者負担があり、その中でも、給食費の家計への負担は最も重くなっています。

※ 2022 年度の給食費は、小学生が月割 4600 円、年間 55200 円。

中学 1 年生と 2 年生が、月割 4800 円、年間 57600 円。中学 3 年生は、回数が少ないため、月割 4600 円、年間 55200 円です。

学校は、子どもたちが 9 時前から午後 3 時過ぎまで過ごす場所です。

昼食は、生活にとって欠かせません。

それならば、子どもたちだれもが、お金の心配なく給食を食べられるためにも、学校給食の無料化が必要です。

<広がる学校給食無料化>

いま学校給食の無料化を求める動きが広がり、全国自治体の約 1/4、451 の自治体が

無料になっています。

また、無料化していない自治体でも、半額補助や、第2・3子以降分や中学だけを無料にするなどの軽減策を実施しています。(日本農業新聞の調査：2月22日)川崎市は、残念ですが実施していません。

国は、自治体任せにせず学校給食費の無償化(無料化)を一刻も早く、実施すべきです。

そして、それを早めるためにも、川崎市と川崎市議会の英断を求めます。

川崎の中学生まで給食を無料にする費用は、年58億円。川崎市の「確かな財政力」で、十分に実現可能です。

<給食無料化署名のお願い>

2015名の賛同者で、2月に提出した「学校給食の無料化を求める請願」は、3月13日に文教委員会で審議され、不採択・廃案となりました。でも、これであきらめるわけにはいきません。

ゆきとどいた教育をすすめる川崎市民の会は、6月市議会に、再度、請願署名を提出します。この署名は昨年度に署名をされた方も請願が廃案となったので、再度の署名をすることができます。

署名の一次締め切は、6月10日 最終締め切りは、7月10日です。ご協力をお願いします。

ゆきとどいた教育をすすめる会 水野栄子

▲ お知らせコーナー

☆等々力緑地再編整備・環境配慮計画書説明会

第1回説明会日時：5/13(土)10時～14時40分

第2回説明会日時：5/15(月)15時～19時40分

場所：等々力球場・会議室 中原区等々力1-1

参加者数制約あり？

各日同内容で、時間を区切り5回開催いたします。

お問い合わせ先

川崎市建設緑政局 富士見・等々力再編整備室

電話：044-200-2408

☆公害・環境、健康、まちづくりフェスタ

5/21(日)11時～15時

武蔵溝の口駅ペディスタルデッキ

主催：「公害・環境、健康、まちづくり」フェス実行委員会

連絡先 川崎公害病患者と家族の会内 044-211-0391

☆ゆめごこちライブ「李政美ライブ」

5/28(日)14時

かわさきゆめホール

一般：2500円、障がい者・学生以下：1000円

主催：ゆめホールライブ実行委員会

お問合せ 044-433-3003

hall@kawasakiyume.com

<https://onl.bz/r1vjvmc>

☆平和をきづく市民のつどい

6/4(日)10時開会

川崎市平和館

参加費無料

記念公演：青井未帆

「戦争ではなく、平和の準備を」

主催「平和をきづく市民のつどい」実行委員会

090-1458-3102(柴田)

<https://onl.bz/HWJuLpe>

☆本当のことしか言わないツアー 2023

—金平茂紀縦横無尽に語る—

6/8(木)18:30

川崎市産業振興会館ホール

資料代500円

呼びかけ・主催：なんてん～神奈川10区の会～

申込み

nanten2017@gmail.com

090-1708-6635(五十嵐)

<https://onl.bz/EeZ6iht>

☆ゆめホールシネマ倶楽部

「原発を止めた裁判長—そして原発をとめる農家たち—」

6/25(日)①9時 ②12時 ③15時 ④18時

①②アフタートーク：小山田大和さん

③④アフタートーク：小原浩靖監督

一般：1000円

障がい者：500円

学生以下：200円

当日：各 500 円増
<要予約>
予約・お問合せ
044-433-3003 ゆめホール
cinema@kawasakiyume.com
<https://onl.bz/12j5Ht3>

★ 編集後記

covid-19（新型コロナウイルス感染症）の感染症法上の扱いが5類となりました。
インフルエンザと同じ扱いになります。

経済の回復、日常生活の正常化という点では歓迎すべきでしょうが、「本当に大丈夫？」という不安はぬぐえません。

無料だった診療費も初診で4,170円かかるらしい。

入院費も最大で月2万円が補助されるといいますが、エクモなど使うようになればかかる費用はとんでもないことになります。

国がやめてしまったのだから、「せめて自治体で」と思いますが、これまでも独自施策は何もやらなかった福田市長のこと、期待は持てません。

大企業にはジャブジャブとお金をつぎ込み、市民のための財布はしっかり閉めたまま。

今回の市議選で躍進した維新の会が大阪でやってきた改革とは何でしょう。

大阪都構想と特別市の考え方は殆ど同じです。

私たちは、厳しく監視し、維新とは何か、何者か、メルマガで事実を示して、明らかにしていきましょう。(Y)